

子宮卵管造影検査をお受けになる方へ

社会福祉法人 聖母会
聖母病院 産婦人科

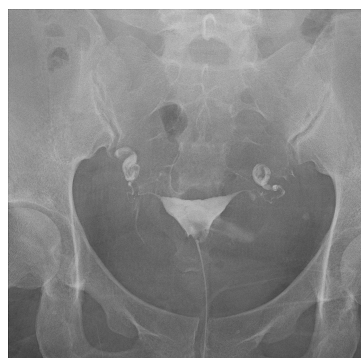
1. 子宮卵管造影検査とは

本検査では造影剤を膣から子宮頸管、子宮腔、卵管を通じて腹腔内に注入し、その過程をX線で撮影することで、子宮の形態や卵管の通過性など観察します。

2. 検査で何がわかりますか？

この検査により子宮内腔の形態異常や卵管閉塞・卵管周囲の癒着など、不妊症・不育症の原因となりうる病変の有無がわかります。

【子宮卵管造影の一例】



左図：子宮・卵管像（正常）

子宮内腔は逆三角形に描出され、両側の卵管も観察される。



右図：腹腔内拡散像（正常）

造影剤が腹腔内に拡散されており、卵管周囲の癒着の可能性は低い。

3. 検査の予約

1) 予約する前に

発熱、感染や炎症があると検査はできません。この検査は造影剤を膣→子宮を通して腹腔内に入れるので、その場所に感染や炎症があるとそれらを腹腔内（＝おなかの中）にばらまいてしまうこととなります。そのため、この検査の前には末梢血検査とクラミジア検査を完了している必要があります。

2) 検査の予約手順

この検査は放射線から受精卵を守るために月経終了後から排卵までの期間で行います。月経中に産婦人科外来を受診していただき、医師と相談して月経終了後の適切な日で子宮卵管造影検査の予約を取ります（通常は月曜日～金曜日の午後に実施します）。また、予約時に造影剤の使用に関する説明書をお渡しします。同意書に署名の上、検査当日にご持参ください。

4. 検査当日の流れ

1) 食事について

検査の際、軽度の疼痛を伴います。気分が悪くなることもありますので、当日の朝食・昼食は軽食としてください。

2) 受診受付を済ませ、婦人科外来へお越しください。造影剤の使用に関する同意書（署名済み）を看護師にお渡しください。

3) 地下1階レントゲン透視室にて検査を行います。看護師がご案内いたします。

4) 診察台に膝を立てた状態で仰向けになり、診察の器具、カテーテルを膣より子宮内に挿入します。カテーテルより造影剤を注入し適宜撮影を行います。造影剤注入による撮影ののち、15-20分後に再度撮影を行い検査終了です。

5) 婦人科外来にて結果をお話しいたします。画像（電子データもしくはフィルム）をお渡しすることも可能です。ご希望される場合にはお申し出ください。

6) 抗菌薬を処方いたしますので服用してください。

5. ご注意いただきたいこと

1) 少量ではありますが、性器出血を生じます。また、使用した造影剤も漏れてきます。必ず生理用品（ナプキン）をご持参ください。

2) 疼痛が強い場合、検査を中止することがございます。

3) 本検査でのレントゲン被ばくは極少量です。検査終了後の妊娠は可能です。

4) 次の場合、検査を延期しますのでご注意ください。

① 妊娠の可能性がある。（直近の生理以降、避妊しないで性交渉をした場合）

② 体調不良（発熱、下腹痛など）

5) 電話での検査キャンセルは可能ですが、検査日の変更はできません。

以上、子宮卵管造影についてご説明いたします。不明点がございましたら、医師・看護師におたずねください。